

WAC2019 報告①

鳥取大学医学部皮膚病態学
杉田和成

この度、2019年12月12日から14日までフランス・リヨンで開催された、World Allergy Congress (WAC) に参加してまいりました。鳥取大学皮膚病態学の杉田和成と申します。日本アレルギー学会の国際交流事業の一環として、JSA Sister Society Symposium で講演の機会を賜りました。このような機会を与えてくださり、国際交流委員会の先生方、ご支援いただいている学会員の皆様方に厚く御礼申し上げます。

私の講演は、学会最終日の14日でしたので、それまで、多くのご講演を拝聴しました。初日は、喘息などのアレルギー疾患におけるバリア機能に着目したゲノムワイド関連解析、アレルギー疾患のエピジェネティクスについての最新の話題、アレルギー疾患の検査法などのご講演を、拝聴いたしました。留学時代の海外の友人と再会することもでき、お互いの近況や研究について情報交換し、国際交流を楽しみました。夕方、opening ceremony が行われ、World Allergy Organization (WAO) の海老澤元宏先生が壇上でご挨拶され、各賞の授賞式、受賞講演が行われたのが印象に残っており、アレルギー領域の日本のプレゼンスを感じることができました。多くの偉大な先生方のご尽力のおかげで、アレルギー研究の community における日本の存在感が高まっているのだと思いました。

会の2日目は、アレルギー性皮膚疾患の新規治療についての最新情報、アナフィラキシーについての American Academy of Allergy, Asthma & Immunology (AAAAI) の Sister Society Symposium、アトピー性皮膚炎の最新治療についてのランチョンセミナー等に参加しました。Sister Society Symposium の数々は国際色豊かな community で、そこでの最新のエビデンスに裏打ちされたデータには説得力がありました。いずれも非常に practical な内容で、実臨床に役立つ知識を up-to-date できました。

最終日、JSA Sister Society Symposium が、Immunology of Barrier Surfaces のテーマで行われました。岡田峰陽先生、倉島洋介先生がご発表され、基礎研究者のサイエンスに対する真摯な姿勢とレベルの高さに圧倒されました。私は、本シンポジウムで自然リンパ球とバリアをテーマに、気管支喘息とアトピー性皮膚炎について講演させていただきました。本講演は、スイス-日本-カナダの3カ国のラボによる国際間共同研究の成果で、international な環境下で研究をさせていただきました。出席くださった先生方ともディスカッションし、国際交流を深めることができました。

私は元臨床医ですので、患者さんに還元できる臨床に直結した知識の up-to-date と臨床のディスカッションを非常に重視しています。加えて、community を作り、community に積極的に関わっていくこと、国内はもちろんのこと国境を超えた人と人とのコミュニケーションが、学術の発展にとって大切であろうということを、WAC2019 に参加し実感しました。これから、世界を目指していく、若手の先生方におかれましては（私自身、まだまだ若手ですが、..), ぜひ国際交流を通じて、世界の community に加わっていただけたらと思います。